

◇-----◇
下水道の最新情報をお届けします！

発行日：2012. 3. 5

下水道機構の『新技術情報』 第36号

(財) 下水道新技術推進機構 <http://www.jiwet.or.jp/>

◇-----◇

3.11、間もなく東日本大震災から1年が経ちます。犠牲になられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

うれしいニュースがありました。東北の友人が来月出産予定です。復興に向けて、東北を担う、日本を担う希望の星々の誕生に大人たちはパワーをもらっています。

さて、今週も機構メールマガジン『新技術情報』第36号をお届けします。

業務に **Tea Break** にご活用ください。

■□■□トピックス□■□■

★インフォメーション

・2月23日(木)に平成23年度第3回管路技術共同研究委員会(委員長：早稲田大学 小泉教授)が開催され、終了案件2件、新規案件1件について、審議が行われました。

・2月27日(月)に第3回汚泥処理技術共同研究委員会(委員長：山梨大学 金子教授)が開催されました。

・2月28日(火)に平成23年度第3回水処理技術共同研究委員会(委員長：東京大学 味埜教授)が開催されました。

★機構の動き

・今週は、3月6日(火)第2回下水道クイックプロジェクト推進委員会、3月7日(水)第3回技術委員会、3月7日(水)第3回技術委員会、3月8日(木)平成23年度建設技術審査証明事業(下水道技術)交付式、3月8日(木)第302回技術サロン、3月9日(金)第17回下水道新技術研究発表会【東京会場】が開催されます。

★Tea Break

・ホワイトアウト (研究第一部 坪川貴芳さんからの投稿です)

★みなさまからのコラム

・掲載情報募集中！

機構の新技術情報でお伝えしたい情報をお持ちの方は本コラムをご活用ください。

情報提供はこちらまで→ jiwet@jiwet.or.jp

★国からの情報

・3月1日付け下水道ホットインフォメーションです

.....
インフォメーション (最新の話です)
.....

●2月23日(木)に平成23年度第3回管路技術共同研究委員会(委員長：小泉淳)が開催され、終了案件2件、新規案件1件について、審議が行われました。

はじめに、終了案件の『下水道マンホールふたの調査・診断・更新に関する共同研究』について、審議が行われました。委員会では、マニュアル(案)の内容について、事前に各委員からいただいた査読意見を踏まえた修正案を事務局が報告し、審議いたしました。

次に、『シールド切替型推進工法の技術に関する共同研究』について、審議が行われました。本研究は新規案件ということで、はじめに技術概要の説明の中で既存の技術との相違点、得失等について質疑が行われ、次に今後進めていく研究内容、研究項目について審議を行いました。

最後に、終了案件の『衝撃弾性波法による管路診断に関する共同研究』について、審議が行われました。委員会では、前回の技術委員会での指摘事項を受けて、検査精度、結果の表現方法、TVカメラ調査の活用等に関する整理方針と技術資料(案)の内容について、報告し、審議が行われました。また、今後現場でのデータを蓄積・整理していくことで、検査精度の向上を志向していくことが確認されました。

以上、3案件の審議内容については、3月の技術委員会で報告する予定です。

●2月27日(月)に第3回汚泥処理技術共同研究委員会(委員長：山梨大学 金子教授)を実施しました。議題は、「最新汚泥焼却炉のN₂O排出量に関する共同研究」と「鋼板製消化タンクに関する共同研究」でした。

「最新汚泥焼却炉のN₂O排出量に関する共同研究」では、N₂Oの生成反応についての文献整理、省エネ効果についての試算について報告後、技術資料案について議論をしました。本テーマは、今年度技術資料としてまとめる予定です。

「鋼板製消化タンクに関する共同研究」では、プラントの運転初期データのうち、消化タンクの放熱の課題、ガス発生倍率、消化タンク内の流動解析、建設工期について議論しました。本テーマは来年度も継続テーマですので、今後も詳細な議論ができるようにデータの取得を継続していきます。

●2月28日(火)に平成23年度第3回水処理技術共同研究委員会(委員長：東京大学 味埜教授)が開催されました。

議題は、

(1)「酸化剤を用いた余剰汚泥削減技術(標準活性汚泥法)に関する共同研究」

(2)「セラミック平膜を用いた膜分離活性汚泥法に関する共同研究」の2議題です。

(1)に関して、新規案件として審議が行なわれました。本件は、大分市、日鉄環境エンジニアリング(株)および扶桑建設工業(株)と当機構の共同研究として実施するものです。今回の委員会では、技術情報、研究内容およびスケジュール等について説明を行い、評価方法等についてご意見を頂きました。平成23、24年度と実験を行い、平成24年度内に技術マニュアルとして取りまとめる予定をしております。

(2)に関して、今回が最終報告となりました。セラミック平膜の特長を活かした膜洗浄風量の削減および逆圧洗浄の周期延長等に関する効率的な運転条件について実証試験を通じて確認した結果を報告するとともに、本研究成果をもとに起草した「セラミック平膜を用いた循環式硝化脱窒型膜分離活性汚泥法技術資料(案)」について、ご審議頂きました。

機構の動き (機構の行事予定です)

●3月6日(火)13:00～15:00(場所:機構8階 特別会議室)

第2回 下水道クイックプロジェクト推進委員会

●3月7日(水)13:00～16:30(場所:機構8階 特別会議室)

第3回 技術委員会

●3月8日(木)13:30～15:20(場所:機構8階 中会議室)

平成23年度 建設技術審査証明事業(下水道技術)交付式

●3月8日(木)17:00～18:00(場所:機構8階 中会議室)

第302回技術サロン<テーマ:津波及び放射性物質を含む汚泥対策について、

講師:日本下水道事業団 技術戦略部長 野村充伸氏>

※参加申し込みはこちらから→ <http://www.jiwet.jp/school/school-07-302.htm>

●3月9日(金)13:00～16:45(場所:東京都港区 発明会館)

第17回 下水道新技術研究発表会【東京会場】

※まだ席に余裕があります。

参加申し込みはこちらから→ http://www.jiwet.jp/school/school-04_017.htm

3月16日(金)13:00～16:45(場所:大阪市西区 大阪科学技術センター)

第17回 下水道新技術研究発表会【大阪会場】

Tea Break (機構職員の感じるまま)

●ホワイトアウト (研究第一部 坪川貴芳さんからの投稿です)

先日、北海道出張で恐い経験をしました。

北海道岩見沢市は、道内でも屈指の豪雪地帯として知られていますが、この冬は特に記録

的な豪雪が続きました。市街地でも、人の背丈を越えるほどの雪の壁が車道にせり出しており、車は交互でなければ通行出来ない場所も多くありました。このような状況ですので、連日の除雪を始め、バスやJRの運休、高速道路の通行止めなど市民生活に多大な影響が出ています。

打合せも終わり、岩見沢名物きじラーメンを食べに行くため、車に乗りこんだその道中のことです。晴れ間もみえていたはずの天候は、みるみるうちに猛吹雪に。数メートル先を走っていたはずのトラックや、真横にそびえていたはずの雪の壁は見えなくなり、ホワイトアウト状態に陥りました。平衡感覚が少しおかしくなり、大変不思議な感覚です。

その状態では、(1)前を走っていたトラックに追突するかもしれない、(2)追突されるかもしれない、(3)真横の雪の壁に突っ込むかもしれない、というリスクがありました。運転して下さっていた方は、北海道を知り尽くしており、そういう場合は、止まらず徐行し、北海道の道は基本的に真っ直ぐということを感じて乗り切るものだそうです。幸いなことに、吹雪が一瞬緩んだ時、歩道の雪の壁が途切れている場所が見え、車を転回させることができ、猛吹雪から脱出することが出来ましたが、私は、きじラーメンどころではないほどの心拍数になっていました。

今回、東京に暮らす私にとって、雪国に暮らすことの厳しさを少し垣間見る事が出来ました。

みなさまのコラム（皆様からお寄せいただいた情報です）

●掲載情報募集中！

機構の新技术情報でお伝えしたい情報をお持ちの方は本コラムをご活用ください。

情報提供はこちらまで→ jiwet@jiwet.or.jp

※原則 400 字以内。なお、お寄せいただいた情報はそのまま掲載することを基本としていますが、掲載の可否は当機構にて判断させていただきます。

↓コチラからは、国からの下水道ホットインフォメーションを掲載しています。



下水道ホットインフォメーション（2012.3.1 付、国からの最新情報です）

送信元： 国土交通省都市・地域整備局下水道部下水道事業課企画専門官 石井宏幸



ミス日本「水の天使」酒井美帆さんから皆さまにメッセージを頂戴しましたので、ご紹介します。

ちなみに、酒井さんは明日の「東日本大震災被災地復興祈念帰宅 RUN」出発式にも来て頂ける予定です。

酒井さんのプロフィールなどは下記 URL をご覧ください。

http://www.sponichi.co.jp/miss_nippon/award12/water/index.html

はじめまして。2012 年度ミス日本「水の天使」の酒井美帆と申します。好奇心旺盛な大学3年生です。「水の天使」は今年が初代ということですので、とても嬉しく、そして同時に責任も感じておりますが、一生懸命がんばります。

私自身が生まれ育った日本は、これまで水関連施設を作り上げてきた皆様の努力のおかげで、水に対する不自由を一切感じずに育ってまいりました。しかし水に恵まれない国がまだまだ多くあります。その現状を実際にその場所へ行き、体験したいと思います。そこで改めて日本の素晴らしい下水道技術のすばらしさを捉えなおし、そして私に何ができるのかを考え、発信したいと思っております。

まだまだみなさんの努力を知っている方は少ないかもしれません。しかし私たちの生活が成り立っているのは、みなさんが一生懸命活動してくださっているからです。私もそのすばらしさを1年間かけて精一杯伝えてまいります。

日本の未来のために、一緒にがんばらせてください。よろしくお願いいたします。

★★★★★ 今週のラインナップ ☆☆☆☆☆

○下水汚泥の有効利用に関する海外向けパンフレットをご利用下さい【下水道協会】
☆芥川章受賞作「共喰い」に下水道が登場【下水道企画課】

=====

○下水汚泥の有効利用に関する海外向けパンフレットをご利用下さい【下水道協会】

(社)日本下水道協会では、下水道展等のイベントや海外からの技術者を対象とした研修等で、下水汚泥の有効利用に関する海外向けパンフレットを活用しており、地方公共団体等にも提供しています。

この度、ホームページで同パンフレットをダウンロードできるようにしましたので、冊子ともどもご活用下さい。

詳細については、(社)日本下水道協会ホームページをご確認下さい。

<http://www.jswa.jp/recycle/pamphlet/>

☆芥川章受賞作「共喰い」に下水道が登場【下水道企画課】

第146回芥川賞受賞で話題を集めている「共喰い」(田中慎弥著)。皆さんはもうご覧になったでしょうか。物語の舞台は昭和63年のとある川沿いの集落。注目すべきことに、物語の冒頭から下水道が登場します。下水道整備を間近に控えた地域という設定です。しかも排水設備は個人負担であるというかなり細かい点にまで踏み込んで描かれています。作品の中では、舞台の淀んだ雰囲気を表現するためか下水が随所で

登場する一方、下水道を整備することで、悪臭対策や公共用水質の改善につながることも読み取れ、芥川賞作品を通じて下水道整備の意義を世の中に広く伝えていただいたとも言えるのではないのでしょうか。下水道が重要な役割を担っている本作品、要注目です！

～ 以上、国からの下水道ホットインフォメーションより～



発行元：財団法人 下水道新技術推進機構 企画部

〒162-0811 東京都新宿区水道町3番1号 水道町ビル 7F

TEL 03-5228-6511(代表) FAX 03-5228-6512

ホームページ：<http://www.jiwet.or.jp/>

○お伝えしたい情報をお持ちの方はこちらから→ jiwet@jiwet.or.jp

○メルマガ配信登録についてのお問い合わせはこちらから→ jiwet@jiwet.or.jp

○ニューズレターはこちらから → <http://www.jiwet.jp/newsletter/20111130/>

○コラムの正解はこちらから→ <http://www.jiwet.jp/newsletter/20111130/seikai.pdf>

